

博士課程

2019

授業科目 〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院
芸術文化学研究所

授業科目〈シラバス〉について

この「2019 授業科目〈シラバス〉」は、平成 31 年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究 I	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究 II	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	22
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	23
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	24
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	25
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	26
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	27
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	28
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	29
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	30
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	31
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	32

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90239	楽曲分析研究	2 単位 後期	1・2	講義	近藤春恵 土井智恵子 村田昌己 (非)

■テーマ

様々なスタイル、音楽語法について研究し、演奏に結び付く分析力を養う。

■授業の概要

- ・19世紀後半の主に印象派以降の和声語法、作曲技法、歴史背景について代表的な作品を選曲し分析を行う。
- ・各回の受講者の予習をもとにゼミ形式で考察を深める。

■到達目標

- ・機能と声から発展させた和声語法、限定移調法 (M.T.L.) などについて分析する。
- ・音楽史上の潮流に区分して特徴を聴き分け作品研究を行う。

■授業計画・方法

1. ガイダンス
2. 印象主義音楽の和声語法
3. 印象主義の音楽作品分析
4. 印象主義の室内楽、管弦楽作品の分析
5. 20世紀の潮流について
6. 新古典主義の音楽作品の分析
7. 新古典主義の管弦楽作品の分析
8. 神秘主義、その他の作品の分析
9. 無調への流れ
10. バルトークの作品
11. ストラヴィンスキーの作品
12. 12音主義への変遷と室内作品
13. 現代音楽の様々な潮流
14. 新しい調性感
15. まとめ 期末試験は課さない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・具体的な曲目については、初回ガイダンスで受講生と調整し決定する。
- ・受講生は各楽曲の楽譜、音源を用意し、授業前に予習して臨むこと。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点7割、レポート提出3割の配点比で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化科学研究科 (後期博士課程) の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 各界の楽譜は受講者が用意をする。入手困難な楽譜については担当教員が配布する。

□テキスト 「印象派以降」柴田南雄著 (音楽之友社) その他担当教員が指定する。

□参考文献 「和声の変遷」エドモン・コステール著 (音楽之友社) 「無調音楽の構造」A. フォート著 (音楽之友社)